

ウリ類の生産安定に関する研究

第1報 スイカのつぎ木について

北嶋 秀臣・西本 太
(熊本県農業試験場)

KITAJIMA, H. and NISHIMOTO, F.

Studies on the Producing Stabiligation of Water-melon and melon.

(1) On the Grafting Methods of Watermelon.

現在、スイカにおけるつぎ木の方法は、割りつぎ、挿しつぎ、呼びつぎで代表されている。

なかでも、呼びつぎは、つぎ木後活着させるまでの管理がきわめて容易であるが、定植が計画どおりにいかず、苗が大きくなりすぎた場合など、苗の運搬の際、あるいは定植の際に、つぎ木部分がさけやすいという欠点があるため、普及がのびやんでいる傾向にある。

そこで、この欠点を改善するために、つぎ木部をもう一ヶ所ふやすことを試みた。

方法は、従来の呼びつぎと同じ要領で、台木の方を切り下げ、穂木の方を切り上げるが、各々切口が二ヶ所となり、第1図のように、つぎ木部も二ヶ所で、がっちりかみあうようになる。切り込み間隔は、台木の方は5~6mm程度がよく、穂木の方は、これより1~2mm程度ひろくした方が、切口がきれいに接合するようである。なお、切り込み角度は、従来のものは40度くらいであるが、これよりやや鋭角のほうが、つぎ木がしやすいようである。そのほかは、従来のものと全く同じ要領である。

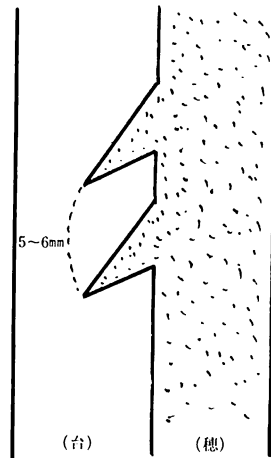
つぎ木の能率については、従来のものより、つぎ木部が多いため、従来のものに比し、約6割程度にとどまった。第1表は、この改良呼びつぎについては、未経験な者5名(A~E)によるデータである。熟練すれば、従来の方法に対し、2割程度の能率の低下にとどまるものと考ええる。

つぎ木部の強度測定については、簡便法で行なった。重りには水を用い、つぎ木部が裂けた時点での水量を計り、強度のデータとした。

これによると、この改良呼びつぎは、従来のものより、約1.5倍の強度を示し、つぎ木部がさけやすい欠点を十分補うことができた。

以上からして、この改良呼びつぎは、能率的には多少おとるが、従来の欠点を十分カバーできるものと考ええる。

なお、メロンにおいても、同様に利用することができる。



第1図

第1表 つぎ木能率

	A	B	C	D	E	平均	本数/10分
普通	100%	100	100	100	100	100	19.2 ^本
改良	59%	60	55	81	58	63	12.1

第2表 つぎ木の強度

	平均	強度		比
		最高	最低	
普通	138 ^g	210 ^g	90 ^g	100
改良	211	255	120	153